

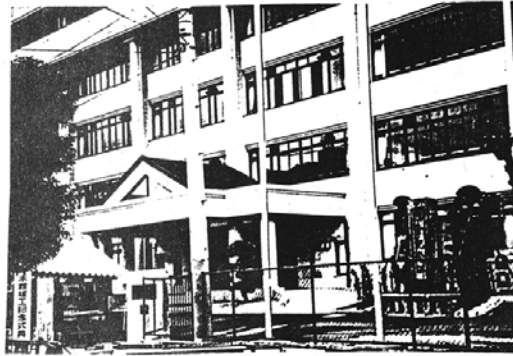
編集委員 機械=福岡昭夫 (S26卒) 橋本健治 (S28卒) 石川芳夫 (S34卒) 電気=笹本克巳 (S13卒) 田中己晴 (S43卒) 投稿送り先 西口勝臣 (S47卒) 土木=秋月勝美 (S18卒) 榎本嘉信 (S20卒) ◎273 船橋市山手2-6-2-108 TEL.0474-33-3679 工化=松井駒治 (S32卒) 柴田孝次 (S34卒) 建築=若林 衛 (S36卒) 森川浩二郎 (S35卒)



戦前 戦中派と

母校の臨幸記念碑

昭和13年電卒 笹本 克巳 Mニユース第4号の頭記事として掲載された土木9年卒の西谷様の記事を拝読し、お答えの意味を含めて一筆致しました。戦前 戦中派の我々にとつて大きな誇りとし朝日に夕に敬礼し



秀なる都工の栄光に一段と花を添えるものとして、校門に立つ臨幸記念碑の存在は未永くその榮譽を伝えて行くことでしょう。当日の写真も添えて報告と致します。

て来た記念碑は本館改築中は古い浪速工業会員の強い要望により白布で包まれて、その儘温存され、新本館竣工後は元の位置で厳然とそびえています。私は昨年十二月一日竣工記念式典に関東在住の参事として久しぶりに母校を訪れ、五十数年昔の登・下校時を懐かしく回想して敬礼してきました。

空から見た母校

昭和26年機卒 福岡 昭夫 大阪へ行く時とときどき飛行機を利用する。早い目に羽田に着いた日は搭乗手続きの際に窓際の席を希望する。

大和平野を過ぎ、信貴山の南側を過ぎると懐かしい大阪の街並みが眼下に広がる。飛行コースによってなかなか見ることが出来ないが先日、淀川の手前で真下に建設中の母校が見えた。母校は大阪空港へのコースに当たるらしい。

校庭に仮の校舎を建てているためか校庭が非常に狭く見えた。在校生はどんな運動をしているのだろうか、野球部員はそしてサッカー部員はどのように練習しているのだろうか。また、飛行機の騒音はどうして防いでいるのだろうか、なんとなく可愛そうに思えた。

大阪十八年 東京十八年

昭和48年機卒 溝口 清文

都工にはバレーボールをやりたくて入学した。学生生活三年間の思い出は一時間目が終われば早弁と教科書枕の居眠り、昼は食堂、午後は昼寝、三時になると教科書をクラブハウスのロスカーへ入れ「さあ練習」監督は故村上先生で一年生からレギュラーで使って頂いた。練習は非常に厳しく苦しいことしか覚えていない。

三年間大阪府下三位、近畿大会三位、三年生の時インターハイ出場成績を挙げバレーボールをやりたくて入学した甲斐があったと感じている。勉強もせずよく三年間で卒業させて頂いて頂

裸足の感覚

昭和27年機卒 田中 瑛也

この六月、インド洋に浮かぶ真珠の島と云われるスリランカに旅した。海浜のリゾート地ネゴンボ、第一の古都アヌラダプーダ、シンハリ王朝隆盛の跡が微かに遺すポロンナルワ、豊満な美女の肉体が岩肌を描かれていたシギリヤ、森林の都キヤンティ、そして近代都市コロロンボと、比較的ハードな旅であったが、仏教がインドからネパール

に入るに密教的色彩を帯び、仏の理念を五輪の塔という難解な形式を借りて信仰の対象、シンボルと成るに對し、ここセイロンでは(我々にとってはスリランカという名よりもこの名の方が親しめる。)仏陀のふくよかな座像が街の中心に腰を据え、ヨーロッパの都市のコアを形成している教会の尖塔、ペレストロイカ前のソ聯邦における都

たと感謝している。歳数先生ありがとうございました。卒業と同時に東京へ、実業団バレーから三鷹のクラブチームで十五年間草バレー。仕事も二年前十六年間勤めた岩崎通信機を退職し、社長一人の会社に移り毎日営業の仕事で日本中を駆け回っている。今では約二十人の会社になった。

昨年、初めて関東浪速工業会総会に出席し、諸先輩と楽しいひとときを過ごさせて頂いたことに大変感謝しています。ただ残念だったことは、参加者の中で私の年代が一番若いと云うことです。

今後もこの会を通して公私とも多くの交流ができることを楽しみにしています。市のレストラン像とある意味で好対を為している。とりわけ心に刻んだ思い出はミヒンタレの山に登った時であった。スリランカでは仏寺に入ると、その寺の堂内でなく境内に入ると裸足で歩かねばならなかった。わけても、ミヒンタレは最初に仏教がセイロンに伝来した土地と聞く。

因みに、地名ミヒンタレはシンハリ語でミヒンはその仏教伝来僧の名でタレは山を意味する。ここつとつとした砂利道、焼ける様に熱い岩山、急勾配の道を我先に争いながら群衆は危険も還みず、今にも折れそうな鉄柵に絡みつく。原地人と共に登りつめた山頂の感慨は吹く風に拭われる汗の様に爽やかであった。裸足で味わった先祖返りの感覚、他家を訪問の際「スリッパをどうぞ」と奨められる今日、文化再考といかないまでも素直に裸足とお奨めしたい。

都島本通り 戦中派の思い出 昭和20年土卒 榎本 嘉信

毎年8月15日が近づくと我々戦中派の人間は都工時代の戦争中の思い出が甦ってくる。昭和20年3月土木科卒の私達は昭和19年初夏より大阪海軍施設部へ勤労働員で狩り出され、級友は数名づつ別れて近畿各県の海軍施設設営のため、測量、製図に日夜頑張ったものである。そのため一般人のような食糧難を味わうこともなく、かなり充実した日々を送った。

特に、この時代印象に残っているのは私達のグループが和歌山県由良町にある由良防備隊の設営に従事した時、海軍の指定した下宿が往年の松竹映画スタ「土紀移一」の生家であった。その家にはシナリオや文芸書、クラシックレコードが数多くあり、毎日の苛酷な労働の後夜遅くまで読書し、休日にはクラシックレコードを聞くなど、戦争に無縁な一時を持ったことを懐かしく思い出される。一般人にとって苦しい暗い時代であったでしょうが、多感な青春時代の一時期をかなり自由な雰囲気恵まれて過ごせたことを今でも幸せに思っております。なお、最後に申し添えますがこの時代に技術者として勤労働員された工業学校は都工だけだと聞いております。都工の評価はかなり高かったようです。

私の健康法

昭和36年電卒 馬江 治喜
都島工業高校を卒業して今年で三十年、五十歳の声を聞くようになってきました。頭はハゲて残っている毛は白くなり体形的にも中年になってしまった。気持ちだけは二十歳代と思い、歳を感じないよう努めています。身体的にはやはり五十歳に近いと思う今日この頃です。

体力の衰えをカバーするため何かスポーツをしなくてはと百歩近い人が感じている様ですが、現実にはスポーツを続けている人は半数にも満たない様です。実際、スポーツをするにしても40、50歳代の人は社会的にみて一番働き盛りのため、時間がないとか仕事に疲れていてスポーツをやる気がないとかの理由があるかと思えます。しかし、自分の健康は誰が管理するのでしょうか。自分の健康は自分自身で管理するしかないのです。従って、自分に合った健康法をいろいろな人(特に健康

関東浪速工業会(望む)

昭和20年土木卒 木村 又風
学徒動員で大阪海軍施設部の山田村に配属になった。多分、今の千里ニュータウンの所ではないかと思われます。全くの寒村で千里山独特の山に皺の寄ったような起伏があり、その横腹に隧道を掘ってその中に軍需工場を入れようと言う計画のもとに学徒動員の立命館大工学部生をチーフとした我々都島土木科の生徒2、3人が1チームとなつて測量をしていた。工事半ばで終戦を迎える事となった。終戦後、私は土木と全く関係のない仕事に就いて約四十年間

な都工の先輩)に聞いて実行していけば良いと思えます。五十歳位迄は少々無理してもどうか働けると思いますが、六十歳以上になつてくると自分の健康を心がけて実行している人と、していない人では差が出てくるようです。しかし、いくらかスポーツをしても痛とか内蔵の病気については別です。それは早期発見のための年一、二回のドック入りによる健康管理である程度防ぐことが出来ると思えます。

以上は泳ぐようにしています。そして泳いだ練習方法、タイム距離等を必ず記録して体力管理をしています。

また、マスターズ水泳協会の大会に参加してタイムを公式に記録することにより自分の体力維持と練習成果を管理しています。マスターズ大会は日本全国で行はれており、年一回世界各地でも行はれております。私は現在は神奈川県で参加していますので皆様も参加されるときは声をかけて下さい。

私の健康管理について少々述べますと、年に一回は人間ドックに入り内蔵を重点に診てもらっています。お陰様で現在は特に注意しなければいけない所はないのですが、塩分と糖分を採りすぎない様に食事に気を付けている程度で、他は体重を減らすよう心がけています。そのためにはジョギングが一番ですが膝が弱いためトレニング室で自転車に乗って汗を流しています。他には、家の近くのプールに月8、10回通い、月に二万歩

都工とも、卒業生とも、音信殆んど不通状態であったが、丁度仕事も変わり還暦も過ぎ、段々と昔が懐かしくなってチヨイチヨイ仲間とも連絡を取るようになってきた。その間、昭土会の会報等色々との連絡を頂きましたが会費を支払ったり支払わなかったりしている現状です、多分こんな会員も可成いらっしゃるのではないかと。会費はなんの為に払うのか、卒業生としての務めなのか、義務なのか、若い時の学校を懐かしむ為か、会と付き合っておけば何かメリットがあるかなあ、等など。大阪人は良い意味の合理主義、悪く言えばケチ、なか

なか会費が全員完納と言うわけには行かないのではないかと。会は豊かな会費で運営する方が楽に決まっている。それでは会費の納入することによるメリットを付加すれば合理主義のケチ精神でも皆んな喜んで納入するのではないかと。

では、メリットとは何か、それは人それぞれ価値観、考え方は自ずと違ってくると思う。昔を懐かしめるメリット、会員同志の情報交換のメリット、仕事の上で助け合うメリット等々その他、会員の皆様により多くのメリットの還元ができ、併せて昭土会の益々の繁栄を乞い願うものであります。

昭土会が全員の完納と言わなければならないのではないかと。会は豊かな会費で運営する方が楽に決まっている。それでは会費の納入することによるメリットを付加すれば合理主義のケチ精神でも皆んな喜んで納入するのではないかと。

関東浪速工業会の運営方法について

(昨年度総会資料より)

現在、当会は各科より選出された幹事により組織された幹事会を中心に、浪速工業会の関東支部として本部からの資金還元を受けながら運営されております。また、その幹事会は1交代で各科輪番制の世話役(当番科)が中心となって、ボランティア活動的に運営されております。ところで関東地区在住者が少なくなっていることや、科によって人数の少ないところがあるなど、会の運営のための作業が少数の人に偏ったりし過ぎることもあり、また、各科の交流が増えることが望ましいことなどを考え合わせて、幹事会で協議のうえ今後、下記のような方法で幹事会を運営していく旨決定致しましたので、ここに報告させていただきます。

幹事会の運営方法

- (1) 幹事会は各科の輪番で毎年の当番科を定め運営する。ただし、当番科は正・副の2科より構成し、協力・分担しながら必要作業を処理するものとする。また、これに伴い副会長を設けるものとする。
- (2) この当番科は2年ずつ担当することとし初年度を副、2年目を正とする。

	1991年度 平成3年	1992年度 平成4年	1993年度 平成5年	1994年度 平成6年	1995年度 平成7年	1996年度 平成8年
建築	正	副	正	副	正	副
電気	副	正	副	正	副	正
土木	正	副	正	副	正	副
機械	副	正	副	正	副	正
工業化学	正	副	正	副	正	副

“納涼屋形船”開催

昭和45年建卒 西口 勝臣
八月十日(水)夕、関東浪速工業会主催の納涼屋形船を開催した。横浜港、すぐ横に日本丸や東洋一の高さになるだろう建設中のラウンドマークタワー、それにイルミネーションで飾られた遊園地というロケーションであった。

参加者は女性一名男性二十八名の二十九名。午後五時に出航して八時までの三時間、ビール片手に海上の涼風に吹かれ、途中小雨が降ったものの楽しい一週を過ごした。帰りには港内を眺めるといよいよおまけまでつき、来年も是非納涼船をやるかと約束して散会した。

関東青風会だより

関東青風会で6月27日(木)幹事会を開き、上畑会長に引き続き留任をお願いすると共に、次の役員を満場一致で選任しました。

- 会長 上畑清郎(昭12年卒)
- 副会長 笹本克巳(昭13年卒)
- 幹事長 小林孝栄(昭29年卒)
- 幹事 野村明(昭15年卒)、戸部暢(昭16年卒)、坂本朋清(昭25年卒)、岩崎亮平、平松功、吉田進(昭29年卒)、馬江治喜、竹村繁幸(昭38年卒)、田中己晴(昭43年卒)、他に、会運営のために常々お力添えいたたく次の四氏に顧問をお願いすることとしました。元木光之助(昭4年卒)、島節夫、松尾嘉雄(昭14年卒)、松本良夫(昭16年卒) 以上敬称略。



ビルメンテナンス
お引き立下さいます
千代田区鍛冶町二丁目九番二
取締役業務部長 笹本克巳 E13卒
TEL 5256-3561

なお、青風会としては浪速工業会の企画事業に協力することを第一義とし、今年十一月に筑波研究学園都市のロボット見学を考えています。更に、十一月予定されている浪速工業会の総会から電気科が当番科になりますので各位尚一層のご協力をお願い致します。(E13笹本記)

↑ Mニュースではこの5号より広告を受け付ける事になりました。初広告を笹本さんをお願いして出して戴きました。皆さんどうぞ奮ってご利用下さい。広告料は今回のサイズで6000円、1/2サイズで3000円です。広告原稿とお金を添えて編集委員までお送り下さい。